

横浜トリエンナーレ 2008 総合ディレクターは 水沢勉氏に決定!

テーマは「Time Crevasse (タイムクレヴァス)」

2001年に始まった現代美術の国際展「横浜トリエンナーレ」。第3回展となる「横浜トリエンナーレ2008」の総合ディレクターに水沢勉氏の就任が決定しました。

総合ディレクターの掲げるテーマ「Time Crevasse (タイムクレヴァス)」に基づき、世界各地より作家約80人を選定し、多様な作品(映像、インスタレーション、写真、絵画、彫刻等)を展示します。会期は2008年9月から12月までの間の80日程度、会場は横浜市山下ふ頭周辺をはじめとする都心臨海部を予定しています(主催:ジャパンファウンデーション、横浜市、NHK、朝日新聞社、横浜トリエンナーレ組織委員会ほか)。

世界最先端の現代美術の紹介に努め、新作を中心に展観する一方で、開催地・開催場所の魅力や個性を生かした作品も数多く含めることにより、街を取り込んだ大規模な「美術の祭典」を目指します。

会期中はトリエンナーレのコンセプトや理念を補完するシンポジウムをはじめ、作家と参加者との対話が広がるようなワークショップやギャラリートークなどの交流イベントも積極的に展開するほか、国内外の美術機関や他の国際展との連携も模索していきます。

Time Crevasse とは (タイムクレヴァス)

アートは、わたしたちの日常をゆさぶり、普段は気づかない、あるいは、しばしば忘れていたふりをしている「深淵」を垣間見させ、わたしたちをときに慄然とさせ、ときに勇気づけ、ときに慰め、ときに生きる覚悟をあたえてくれます。アートの力は、まずは、その深淵を直視し、いうならば「タイムクレヴァス」のかたわらに佇むことによって、個人と社会、国家、性差、世代差、人種、宗教といった相互の差異を、現在の自分自身が置かれている状況を含めて、徹底して感じ取ることから生まれ出てくるのではないのでしょうか。

横浜というわずか150年ほど前に、世界へと初めて開かれた若い都市は、そのようなアートによる橋をかけるための相応しい場所ではないのでしょうか。そして、それが文化的な成熟へのたいせつな一歩となってくれることを願い、横浜トリエンナーレ第3回展を私は「タイムクレヴァス」と命名したのです。

(基本コンセプトより抜粋)

横浜という魅力的な「若い」都市が、さらに年輪を重ね、静かに熟成していく時期が訪れているように感じています。港町の解放感を大事にしなが、未来に向けたしつかりとした一歩を3回目となるトリエンナーレで踏み出すことができればよいと思います。テーマはちょっと謎めいた「Time Crevasse (タイムクレヴァス)」。多くの方々にとってが伝える時間を越えるメッセージの強さと深さと魅惑を感じてもらえたらと思います。

総合ディレクター就任にあたって



みずさわ つとむ ● 神奈川県立近代美術館企画課長。横浜市生まれ。1978年慶應義塾大学大学院修士課程修了後、神奈川県立近代美術館に学芸員として勤務。ドイツ語圏および日本の近現代美術に関心を抱き、その交流史についても論じる。著作や企画・担当した展覧会は多数。93年と97年にはバンク・ラデシュ アジア・アート・ビエンナーレ、2004年にはサンパウロ・ビエンナーレの日本コミッショナーを務めた

水沢勉